

はぐくみ会だより

第 28 号

平成21年11月 1 日

所蔵作品紹介

(27)

「コンポジション」

岩城信嘉作



(140×75×52cm)

作品は平成6年に本校の創立百周年を記念して寄贈され、以来青井記念館外周の庭に建っている。長方形を組み合わせとする御影石の四面に、突出する金属平板がほどよい調和を醸し出す抽象的な彫刻である。

作者の岩城氏は、昭和10年に南砺市城端の石材屋を営む10代目として生まれた。幼少より絵を好み、昭和26年に本校図案絵画科に入学。在学中は日本画・洋画などを学んだ。卒業後、家業を継ぐ傍ら美術作家を志し、石彫作家として県内外の美術展に出品を始める。国内では行動美術会に所属し、昭和40年には数多くの受賞歴により同协会会员となる。その間、ジュネーブ国際展において、コンソレーションプライズを受賞している。

後に「刻む」作品制作からの転機であろうか、テーマを「光と影・海と陸・空間と時間による実験」と称し、砂浜に数本の巨大な長方形の石柱を立て、それらが波に洗われ倒伏して作り出すインスタレーション(空間・環境芸術)を試みるようになる。昭和59年の米国サンディエゴ海岸を皮切りに、石川県千里浜海岸、富山県岩瀬浜海岸など16回の実験をおし、斬新な感覚で意欲的な芸術活動を展開された。

平成20年11月に逝去。

常設展Ⅱ期

8月11日(火)～11月3日(火)

「高岡のものづくりを育んだ人々」

明治27年10月22日工芸学校
が開校されました。
開学にあたり富山県工芸品
陳列場の建物・所蔵品を引き
継ぎま



▲工芸品陳列場より
引き継いだ美術品

ました。

◇礎を築く

―草創期の人たち―

本展では、工芸学校で「もの
づくり」に関係された歴代
の先生方や卒業生で
教育機関や産業試験
場・工芸試験場、美
術界において後進の
指導をされた方々の
作品を紹介した。
創校時には、初代

校長の納富介次郎(佐賀県)
により、原型制作の大塚秀之
丞(山口県)、漆芸の新村弥
三郎(石川県)などが招聘さ
れ、大塚先生は大正6年、新
村先生は昭和5年までと長く
本校で教鞭を取られた。

また、高岡の優れた技術者
も招かれ、彫金担当の関義平
をはじめ、関沢卯市、小馬次



▲漆商品のヒット作品、
初代校長納富介次郎
先生の作品



▲高岡銅器に彫塑技法を伝えた
大塚秀之丞先生の作品

◇成果輝く

―国内・海外博への出品―

明治・大正時代に学んだ生
徒作品や先生方の作品が国内
や海外の博覧会に出品された。
創校から10年後の明治37年
にはセントルイス国際博で金賞
を受賞するなど、明治期2回、
大正期2
回、昭和
期1回な
ど海外博
で輝かし
い業績を
上げてい
る。



▲明治・大正期卒業生の美術品



▲大正3年サンフランシスコ万博

美術界で
大きな指導力
を発揮された
山崎覚太郎ほ
か多くの優れ
た作家を輩出
している。

●同窓生ギャラリー●

5月30日(土)～6月28日(日)

「素描・拓本2人展」



高岡開町400
年記念を祝して、
高岡御車山を拓本
で忠実に表現され
ている市内在住の
彫刻家串田保二氏
と、当館美術館長
の城宝(昭和29図案絵画科卒)の素描作品によ
る2人展が開催された。串田氏の拓本は、粘土
板に御車山を薄板状のレリーフで精巧に制作し、
さらに石膏で型取りしたのち拓本にされている。
会場では石膏型と拓本を並べて展示した。市役
所の文化財担当者も見学し、正確で細密に彫刻
された文様表現などに感嘆されていた。

「青湧会展」

8月11日(火)～8月30日(日)

昭和33年の卒業生による33会展を青湧会と改
称し、昨年引き続き当館で第2回展を開催さ
れた。会員17名による日本画・洋画・彫刻・工
芸・写真・チギリ絵など
70余点の作品が多数展示
された。御車山の絵巻物
と原画を描いた太田氏の
作品、中川氏のステンド
グラス、賛助作品として
の池上栄一先生の紫色の
花器などが、とりわけ会
場を盛り上げていた。



高岡開町40



○主な作家

漆工

三村卯右エ門、十
二町貞吉、寺島弥
作、太田誠二、山
崎寛太郎、村田吉
雄

金工

内島市平、島安次
郎、山本与三次郎、
須賀良二、松村治
吉、関省三郎

◇華開◇

―伝統を受け継ぐ―



▲個性的で斬新な作風が多い昭和期の作品

昭和期には東京美術学校出身の先生や卒業生により、一段と充実した工芸教育が行われ、昭和5年にはベ
ルギー国際博覧会を受賞している。

第二次世界大戦後以降、美術界の流れも多様化する中で、

金工の伝統技術を継承する金森栄一が平成元年に人間国宝としての技術保持者に認定されている。さらには平成15年に新しい金工芸術で大角勲が芸術院賞を受賞し、高岡地場産業界へ新風を与えた。

○主な作家

漆工

後藤義雄、新敷孝弘
梶尾宗一、須賀正佐、
金森栄一、大角勲

常設展Ⅰ期

5月16日(土)～7月31日(金)

「工芸学校と彫刻家の群像」



▲彫刻の重量感溢れる会場風景

本校における彫塑学習の分野は、明治27年の創校から昭和51年まで、4名の教師により指導されてきた。本展ではそれぞれが指導された時代の作品や、卒業後に彫刻家として活躍し、母校に寄贈された作品などを展示した。

明治31年、第1回木材彫刻科卒業の畑正吉から昭和50年工芸科卒業の北村憲司、米納宗宏まで、併せて大塚秀之丞、松村秀太郎、田近政二、谷口義人先生の作品も展示して、百有余年の歴史から育った彫刻家達の作品を紹介した。

◆4名の指導者と主な卒業生

□大塚秀之丞とその時代

(明治27～大正6)
畑正吉、国方林三、松村秀太郎、中谷宏運、佐々木長次郎、長谷川義起、竹田与作

□松村秀太郎とその時代

(大正9～昭和14)
柚月芳、松村外次郎、村井辰夫、田近政二、関長造、村上丙

□田近政二とその時代

(昭和14～43)
竹田貞郎、堀田清、岡本昭夫、岩城信嘉、船木佳彦、米林雄一

□谷口義人とその時代

(昭和43～51)
川田良樹、田畑功、北林憲司、米納宗宏

9月8日(火)～10月4日(日)

「夢散歩展」

新湊在住の豊本外良氏(昭和43年電気科卒)を中心に、洋画・パステル画・ペン画・写真など5名による作品展が開催された。豊本氏は趣味でパステル画を始められ、漁船を描いた大作2点のほか白黒の色彩による骨太の構成の力作を出品。岡山氏はペンで緻密に描き込んだ「笑」シリーズの作品、富山駅を多様な視点から撮った磯部氏の組写真など多彩な作品が展示された。会期中には棚辺誠治氏(昭和42工業化学科卒)と友人によるコンサートも催され、多くの来館者があり盛況であった。



10月24日(土)～11月3日(火)

「三・四代 月真展」

昭和38年金属工芸科卒業の須賀真一氏と父謙蔵氏の親子作品展が、尚美展後に開催された。須賀家は代々蠟型による鋳物を専業とし、蜜蜂の蠟と松脂を混ぜた材料で成型した後、銅を鋳込む伝統技法を継承している。



三代謙蔵氏の作品は大型の花器や重厚な茶道具などが、気品と深味のある渋茶の色合いが絶妙である。また、四代真一氏の作品は植物の萼や蔓をイメージした繊細な曲線の造形美が加味され、多くの来館者の目を引いていた。

文化部合同展

恒例となった文化部合同展が開催されました。生徒が放課後に制作してきた作品を一堂に会しての展覧会です。やや残念ながら、日々の授業の課題が多く十分に制作時間をかけることができません、作品に不満を残す生徒も多かったのではないのでしょうか。それでも、他の文化部の活動内容がよく分かり、それぞれの作品のレベルの高さに感嘆の声も上がっていました。来館者の皆さんには、高校生のフレッシュな感性を味わってもらえたことと思います。



7月11日(土)～7月31日(金)

尚美展関連作品展

「同窓生作品展」

10月10日(土)～
10月18日(日)

本校の伝統行事である尚美展にあわせ同窓生作品展が開催されました。旧職員柴田秀紀先生が篆刻作品を出品された他、卒業生17名による日本画・洋画・彫刻・工芸・写真など22点の新作が展示されました。なかでも昭和24年木材工芸科卒業の竹田貞郎氏は抽象彫刻「惑星誕生」を出品。鉄板を切断・加工・溶接して制作された異色な作品でした。同じ彫刻で昭和50年工芸科卒業の米納宗宏氏の作品「灯台のある風景」は、詩的

催事案内

- 第16回青井中美展
11月18日(水)～12月6日(日)
- 常設展Ⅲ期 12月17日(木)～1月10日(日)
- 同窓生ギャラリー
第56回 12月17日(木)～1月10日(日)
- 同窓生ギャラリー
第57回 1月17日(日)～2月21日(日)
- 卒業課題展 2月27日(土)～3月4日(木)
- 常設展Ⅳ期 3月13日(土)～4月4日(日)
- 新収蔵作品展
3月13日(土)～4月4日(日)

な雰囲気形象化した鑄造作品として注目されました。

工芸では、昭和38年金属工芸科卒業の須賀真一氏が繊細な曲線を施した蠟型鑄造による「華白」3点を出品。

作品に小さな花が活けられ、会場に和やかな雰囲気をもたらしていました。

本年も昭和21年卒業生を筆頭に、平成14年卒業生まで幅広く出品され好評でした。



はぐくみ会会員募集のお知らせ

はぐくみ会では会員を募集しています。申し込みは日付から一年間会員となります。主な活動

- ・青井記念館美術館への協力・支援
- ・中学生美術展(青井中美展)への支援

特典

- ・企画展等の案内
- ・はぐくみ会だよりの配布

年会費

- 一般会員(個人) 二,〇〇〇円
- 特別会員(企業、団体等) 一〇,〇〇〇円

お問い合わせ・申し込み先
青井記念館美術館はぐくみ会事務局

編集後記

今年が高岡開町四百年を迎え、様々な催しやイベントが数多く行われました。特に九月十三日の「開町まつり」では、市民参加のもと利長公入城大行進パレードが華々しく行われ、大変賑わいました。

美術館でも、関連事業として、「工芸学校と彫刻家の群像」、「高岡のものづくりを育んだ人々」をテーマに、高岡の工芸美術を回顧する本校創立から現在までの収蔵品を展示しました。これからも、伝統工芸を継承している高岡の技術や美術水準の高さを再認識できるように、地域社会と密接に結びついた展示が行われれば良いと感じました。(中野 記)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会
住所 933-8518 高岡市中川一丁目二〇
TEL (0766) 21-1630 (内線 611)
FAX (0766) 21-1631